



特別寄稿

山口大学における環境配慮活動を

環境保全係に関する業務からご紹介させていただきます



国立大学法人山口大学 施設環境部施設企画課環境保全係

本学の環境配慮活動は、大学憲章や環境に関する基本理念と方針に基づいて「環境目標」を定め、環境貢献技術の創出、環境モラルの醸成、事業活動における温室効果ガス排出量の抑制、廃棄物抑制などに関する事項を目標に掲げ、学内各組織の自律的・効果的なPDCAサイクルを実施しています。

これら環境に関する取り組み状況については、環境配慮促進法で定められる環境報告書で毎年9月末に大学ホームページにて公開しています。今回は「環境報告書2020」として、2019年度の活動状況を下記URLで報告しますので、是非、皆様にご一読頂きたいと思えます。

また、山口大学は、英国の高等教育専門誌による「THE大学インパクトランキング」（地域貢献度評価）では、昨年国内4位、今年国内9位にランクインすることができました。このTHE大学インパクトランキングの評価は、国連の掲げる「持続可能な開発目標」（SDGs）に基づくもので、環境に関する事項は環境報告書がエビデンスになっています。

当係では、環境報告書の編集のための業務を担当しており、専門委員会による研究記事の選定、学生活動記事の募集、普段からのエネルギー統計による使用量や経費の管理、各組織へのPDCAサイクル稼働支援を行うことで、より充実した環境報告書の作成や実績のある環境配慮活動を推進しています。

さらに、この業務のなかで「省エネと環境配慮活動への取り組みの一層の推進」は、大学運営において特に大きな成果を生み出します。具体的には、昨年冬季から新たに「環境目標実施計画書」の運用を開始し、省エネ週間や省エネパトロールを含む詳細な取り組み内容や行動

【参考URL】

- 環境報告書URL http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~fms-01/kankyo/kankyo_index.html
- 共同研究・受託研究URL <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/education.html>
- 山口大学基金URL <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/kikin/8452.html>

時期等を明確化し、学内各組織のPDCAサイクルを促進するとともに、関係者への環境マインドの育成に発展しています。

この活動を含めた全学の環境負荷低減成果は、学生・教職員や関係事業者の参加・協力があって、エネルギー原単位で対前年度比3.0%低減、温室効果ガス排出量原単位で対前年度比10.2%低減を達成できました。（詳細は、環境報告書2020よりご確認ください。）



現在、コロナ禍における大学と病院の運営では、3密防止による換気量確保と空調エネルギーや経費増大、Web講義対応の長期化による学生・教職員の疲労蓄積など、コロナ対策と地球温暖化防止を両立するのは非常に困難な状況ですが、このような社会情勢にも配慮し、これまでの経済発展重視の生活様式から、環境対策、社会貢献についても、全体を見渡せるバランス感覚が必要と考えます。今後も地域と共存できる大学運営に携われるよう、環境に関する教育・研究技術の普及や共同研究の推進など、社会のバランスに配慮できる環境マインドの育成に努めていきたいと思えます。（担当：鳥越 薫）



ヤマミ



環境報告書



共同研究
受託研究



山口大学基金

イベントのお知らせ

第3回環境サロン「食育の大切さ（仮題）」

話題提供者：金子淳子先生（金子小児科院長・みんなや食堂代表）

日時：2020年10月10日（金）15時～17時

場所：宇部市まちなか環境学習館 4階（宇部市中央町二丁目11番21号）

資料代200円（高校生以下無料）

※会場の都合で人数制限があります。参加ご希望の方はご連絡ください。

第3回ESD研修会 テーマ『高等学校におけるESD人材育成』

◆「高校における取組」

高松祐次郎先生（慶進高等学校）・重村直子先生（香川高等学校）

◆「コミュニティ・スクールとESD」

池田拓司先生・大濱進治先生（宇部工業高等学校）

日時：2020年10月17日（土）15時～17時

場所：上宇部ふれあいセンター大会議室（宇部市中村二丁目6番15号）

資料代500円（高校生以下無料）、申込不要

第106回まちなかおそうじ隊

日時：2020年10月25日（日）15時～

集合：学習館前（道具不要、申込不要）

一緒にまちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードを掃除しましょう！

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～21時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）

HomePage



facebook



twitter



指定管理者 NPO 法人うべ環境コミュニティ

「里山ビオトープニ俣瀬をつくる会」 最近の活動状況

つくる会会長 原田満洲夫

昨年来「里山ビオトープニ俣瀬」の創設20周年記念イベントに向かって、ビオトープやニ俣瀬のシンボルである水車の故障の修復を一番の目標とした。記念イベントは従来つくる会が主謀して、親子自然観察隊行事の「里山の暮らし」を会員だけでなく一般の方々にも公開し、参加頂くこととして計画している。

まずは水車の修復に資金が必要である。昨年度“やまぐち元気生活圏活力創生事業”のニ俣瀬コミュニティ連絡協議会を通じて一部支援を受けることが出来、水車の主軸部（金属部）の修復が出来た。これも解体については会員の活動で行い費用も縮小出来て、プレイベントとして行った稲作体験の費用にも活用できた。

令和2年度は残りの水車木造部を業者に発注し、給水設備は我々会員によってパイプの埋め込み、噴出タワーの材料切り出しや設置工事を行った。

給水方式は設置当初は架橋式でいろいろ問題があったので、ニ俣瀬の土木遺産の「駒の頭川越噴水」を真似て、ビオトープに流れ込む水路から地面の底を通して水車前で噴出タワー頭部から放水し、回転方式とした。水車本体木造部も業者によって5月初め完了・給水配管工事とも会員の活動によって7月に完了した為、8月1日に「通

水式」を盛大に執り行うことができた。

今年は新型ウイルスの問題で三密になることを避けるため、4月はじめの総会や毎月の活動が困難ではあったが、①自主活動参加、②ディスタンスを取った打ち合わせや草刈り、③活動日だけでなくそれぞれ時間や日付をずらしての自主参加を取り決めて行っている。

創設20周年記念イベントもあと3か月となったが、昔ながらの里山の暮らし、昔ながらの生活道具の展示・創設以来20年の歩み写真展示の準備で、残暑厳しい折ではあるが着々とすすめている。



8月1日の通水式



水車の台風対策

うべ環境コミュニティー会員

ほっと

コラム



ヤギ、ヒツジによる除草

台風10号の接近に備えて、オリーブ農園も遊休農地の放牧場も小屋は頑丈でないので、ヤギ、ヒツジを安全な畜舎に移すことにした。9月5日、軽トラにヤギ2頭、ヒツジ3頭を載せて、会の事務所に寄る用事があったので街中のコースを走った。途中でついてくる車がいることに気づいた。脇道に入ってもついてくる。

着いて車を止めると追尾車から女の人と若い息子さんらしき2人が降りてくる。

ニコニコ笑っている。「あの～、こんな街中のどこに行くのかと思ってついてきました」とおっしゃる。

「実は、昔ヤギを飼っていて、懐かしくてうれしくなって、ついてきました」と言われる。ああよかった。そういうことか。それから、しばし、ヤギやヒツジの話になる。通りがかりの人も話に加わり、子どもたちも寄ってくる。

話の中で印象に残っているのは、「ヤギは案外グルメなんですよ、カヤなんかは食べない。だから草刈り目的だけでは難しいのよね」という経験談だった。私もそう思う。草1本ないようきれいなというのは、ヤギやヒツジにとって、好きでもないものを食べているわけで、除草終盤になると脱柵を試みたり、実際に柵の外へ出たりするのはそんな理由があるのだ。

畜舎に着いて一息入れて、親しくしているオスヒツジのラスクにこの話を言ってみると「そりゃ最後の見栄えよくするのは人の仕事だね。でも、それ以前に農薬や放射能で汚染されていない草をちゃんと確保してくれれば文句はないよ。安全な草、それだけだよ人間にやってほしいのは」と言っていた。原発の事故で野山で子どもたちは遊べなくなり、牛やヤギ、ヒツジたちは草を食べられなくなった福島を思い出す。同じ過ちは繰り返せない。

台風が過ぎて秋が来た。放牧場に再度戻し、冬が来る前にいっぱい草を食べてもらおうと思う。子どもたちも誘ってみようか。

安藤公門（いのち・未来うべ代表、ヤギとその仲間たちの会会員）



移動中



小野のオリーブ農園で